取扱説明書

K970 II Chain

本機をご使用になる前に、この取扱説明書を注意深くお読みいただき、
内容を必ずご確認ください。

Japanese

マークの説明

取扱説明書のバージョンについて

本マニュアルは北米以外のすべての英語圏で使用される国際バージョンです。北米で作業する場合は、米国バージョンを使用してください。

本機に表記されるシンボルマーク

警告! 本機は危険を伴う道具です。不注意な使用や不適切な使用によって、使用者やその他の人々が重傷や致命傷を負う危険性があります。

本機をご使用になる前に、この取扱説明書を注意深くお読みいただき、内容を必ずご確認ください。

身体保護具を着用してください。「使用者の身体保護具」の項の説明を参照してください。

この製品はEC規格適合製品です。

警告! 切断の際には粉塵が発生し、人体に吸い込まれると危険です。適切な呼吸マスクをご使用ください。排気ガスを吸引しないようにしてください。常時、換気を十分に行ってください。

警告! キックバックは突然かつ急に、勢いよく発生し、命にかかわる傷害を発生させることがあります。本機を使用する前に、本書の説明をよく読み、理解してください。

警告! カッティングブレードから発生する火花から可燃物（ガソリン、木、枯草など）に引火する可能性があります。

チェーンにいかなるヒビや破損もないことを確認してください。

チェーンを樹木の伐採に使わないでください。

チョーク

エアパージ

デコンプバルブ

スターターハンドル

給油、ガソリン／オイル混合

始動方法説明ラベル詳細は、「始動と停止」を参照してください。

環境に対する騒音レベルは EC 指令に準拠しています。本機の騒音レベルは、主要諸元の章とステッカーに記載されています。

本機に付いている他のシンボル/銘板はそれぞれの市場地域に向けた特別な認定条件を示します。

警告レベルの説明

警告は 3 つのレベルで構成されます。

警告!

警告! 避けることができない場合、死亡したり重傷を負う可能性のある危険な状況を表します。

注意!

注意! 避けることができない場合、軽中度の負傷を負う可能性のある危険な状況を表します。

注記!

注記! は人身事故に関係がない取り扱いについて使用しています。

目次

概要

お客様へ

ハスクバーナの製品をご購入いただき誠にありがとうございます。

本製品にご満足いただき、末永くご愛顧いただけることを願っております。弊社製品のご購入後は、弊社技術員による修理ならびに整備をご利用いただけます。お買い上げになった販売店が正規代理店でない場合は、その販売店に最寄りのサービスショップの所在地をお問い合わせください。

本取扱説明書は大切な書類です。常に作業場所ですぐに利用できるようにしてください。説明書の記載内容（使用方法、修理、メンテナンスなど）に従うことにより、本機の寿命を延ばし、転売時の価値を高く維持することができます。本機を転売する場合は、必ず取扱説明書を同梱してください。

300年以上も続けられているイノベーション

ハスクバーナの歴史は、スウェーデン王であるカール11世がマスケット銃の製造を目的とした工場の建設を命じた1689年に遡ります。その時代、ハスクバーナは、猟銃、自転車、オートバイ、国産機械、ミシン、アウトドア製品などの分野で世界をリードするプロダクトを開発。それらの開発を支える技術的スキルを背景に、企業の礎がすでに築かれています。

ハスクバーナは、森林や公園のメンテナンス、芝生や庭の管理向けアウトドア用パワープロダクト、さらには、建設および石材産業向け切削装置やダイヤモンド工具などのグローバルリーダーです。

オーナーの責任

本機を安全に使用するための十分な知識を使用者に持たせることは、オーナーあるいは雇用者の責任です。監督者や使用者は、あらかじめ取扱説明書を読み、内容を理解する必要があります。使用者は以下を確認する必要があります。

- 本機の安全に関する説明事項。
- 本機の用途や使用限度の範囲について。
- 本機の使用方法とメンテナンス方法について。

本機の使用においては、国内法による規制が課せられる場合があります。本機を使用して作業を開始する前に、作業エリアに適用される法律についてご確認ください。

メーカーからお客様へ

この取扱説明書の発行後、ハスクバーナ社は製品の安全な操作のための追加情報を発表する場合があります。最も安全な操作方法の最新情報を確認することは、オーナーの義務です。

ハスクバーナ社は継続的に製品の開発を行っています。そのため、設計や外見などが予告なく変更されることがあります。

ご質問やご要望については、弊社のウェブサイト（www.husqvarnacp.com）からお問い合わせください。

設計および機能

このダイヤモンドチェーンソーは、無筋コンクリートや石材などの硬い材料を切断するために設計されたハンドヘルドのパワーカッターです。この取扱説明書に記載されていない目的には使用しないでください。この製品を安全に操作するため、作業者はこの取扱説明書を注意深く読む必要があります。さらに情報が必要な場合は、販売店またはハスクバーナにご相談ください。

お使いの製品には、以下の特長があります。

SmartCarb™

内蔵自動フィルター補正機能により、ハイパワーを維持し、燃料消費を削減。

Dura Starter™

内部にリターンスプリングとプーリーベアリングが密閉された防塵スターターユニットは、実質的にメンテナンス不要で、高い信頼性があります。

X-Torq®

X-Torq®エンジンは、広範囲のスピードに対して最適なトルクを提供し、最大限の切断能力を実現します。X-Torq®は、燃料消費を最大 20 %、排出ガスを最大 60 %削減します。

EasyStart

エンジンとスターターは、迅速かつ簡単に製品を始動させられるように設計されています。スターターロープの引っ張り抵抗が 40%減少しています。（始動時の圧縮を減少）

エアパージ

エアパージダイアフラムを押すと、燃料はキャブレターへ送られます。エンジンは、スターターを数回引くことで簡単に始動できます。

効率的な防振装置

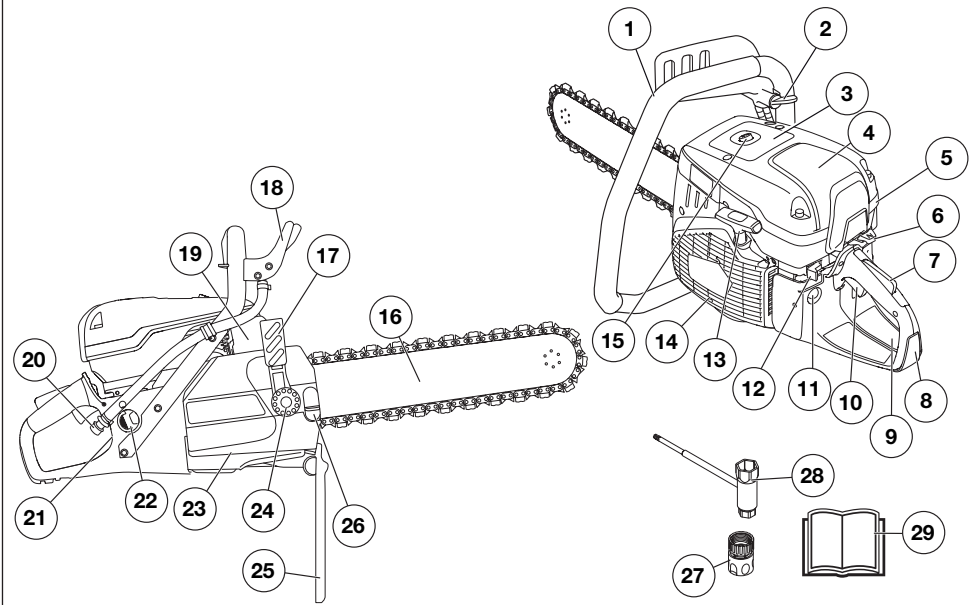
効率的な防振装置により、腕や手に伝わる振動が軽減されます。

大きな切削深さ

切削深さ 390 mm（15 インチ）を実現。一方向から効率的に切削可能。11x11 cm（4x4 インチ）の小さな開口部も切削でき、不規則な形状の切削に最適。

水冷／粉塵管理

このカッティング装置には水冷／粉塵管理システムが装備されているため、水冷式切削が可能で粉塵を抑えることができます。

概要

パワーカッターの各部名称 - K970 II チェーン

1 フロントハンドル
2 給水栓
3 警告シール
4 エアフィルターカバー
5 シリンダーカバー
6 スタートスロットルロック付きチョークコントロール
7 スロットルトリガーロック
8 リヤハンドル
9 始動方法説明ラベル
10 スロットルトリガー
11 エアパージ
12 停止スイッチ
13 スターターハンドル
14 スターターハウジング
15 デコンプバルブ
16 バーとダイヤモンドチェーン（ダイヤモンドチェーンは非同梱）
17 チェーンのテンショナハンドル
18 ハンドガード
19 マフラー
20 定格プレート
21 フィルター付き給水接続部
22 燃料キャップ
23 クラッチカバー
24 バーナット
25 スプレーガード
26 カウンタネジ
27 水コネクタ、GARDENA®
28 コンビレンチ
29 取扱説明書

本機の安全装置

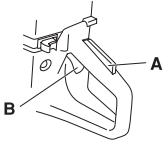
全般

警告！安全装置に欠陥のある製品は決して使用しないでください。お持ちの機械が点検項目を一点でも満たさない場合は、お近くのサービスショップに修理を依頼してください。

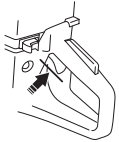
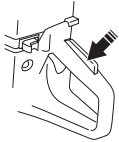
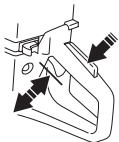
停止スイッチを STOP 位置にして、エンジンを切ってください。

この項では、本機の安全装置とその目的、本機の正しい動作を確保するための検査とメンテナンスの方法について説明します。

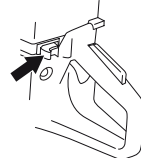
スロットルトリガーロック

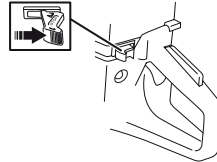
スロットルトリガーロックはスロットルの操作ミスを防ぐためのものです。ロック（A）を押すと、スロットル（B）が解除されます。

スロットルが押されている間は、トリガーロックは押されたままの状態を保ちます。ハンドルのグリップを放すと、スロットルトリガーとスロットルトリガーロックの両方が元の位置に戻ります。この動作は、2つの独立したリターンスプリングシステムが制御しています。この構造はつまり、スロットルトリガーが自動的にアイドリング状態でロックされることを意味します。

スロットルロックの検査

- スロットルロックを放したとき、スロットルトリガーがアイドリングの位置にロックされていることを確認します。

- スロットルロックを押し、指を放すと元の位置に戻ることを確認します。

- スロットルトリガーとスロットルロックがスムーズに動き、リターンスプリングが正しく機能していることを点検します。

- ダイヤモンドチェーンソーを始動し、フルスロットルにします。スロットルトリガーを放し、ソーチェーンが停止し静止状態になっていることを確認します。スロットルトリガーが「アイドリング位置」にあるにもかかわらずチェーンが走行する場合は、キャブレターの「アイドリング調整」をチェックしてください。詳細は、「メンテナンス」を参照してください。

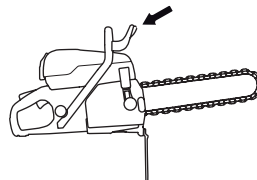
停止スイッチ

停止スイッチはエンジンを切るときに使用します。

停止スイッチの検査

- エンジンを始動し、停止スイッチを停止設定にしたときにエンジンが停止することを確認します。

ハンドガード

警告！本機を始動する前に、ガードが正しく装着されていることを必ず確認してください。

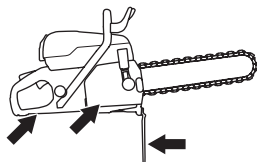
ハンドガードは、例えば、作業者がフロントハンドルを握り損ねたときなどに、動いているカッティングチェーンに手が接触するのを防ぐ役目を持っています。

- ハンドガードが損傷を受けてないことを確認してください。損傷がある場合、ハンドガードを交換してください。

本機の安全装置

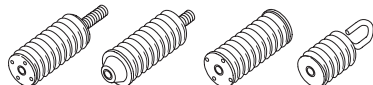
クラッチカバー、スプレーガードおよびリヤ右手ガード

クラッチカバーとスプレーガードは、可動部品、放出された異物、排出された水、コンクリートスラリーとの接触を防ぎます。スプレーガードとリヤ右手ガードも、ダイヤモンドチェーンがはじけたり、跳ねたりした場合にチェーンを受け止めるよう設計されています。

クラッチカバーとスプレーガードの点検

- スラリーが原因でクラッチカバーやスプレーガードにヒビが入ったり、穴が開いたりしていないか確認します。損傷があれば、カバーまたはガードを交換します。

防振装置

警告! 循環器系の弱い人が長時間振動を受け続けると、循環器障害や神経障害を起こすことがあります。長時間振動を受け続けたために症状が現れた場合は、医師の診断を受けてください。症状にはしびれ、感覚麻痺、ピリピリ感、刺痛、痛み、脱力感、皮膚の色や状態の変化などがあります。これらの症状は通常、指や手、手首に現れます。この症状は低温の環境下でよく起こります。

- 本機には防振装置がついており、振動を軽減し、操作しやすいようになっています。
- 本機の防振装置は、エンジンユニットやカッティング装置からハンドルへの振動の伝達を軽減します。カッティング装置を含むエンジン本体は、防振装置によってハンドルに振動が伝わりにくくなっています。

防振装置の検査

警告! 停止スイッチを STOP 位置にして、エンジンを切ってください。

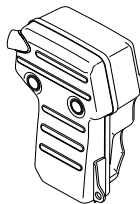
- 防振装置にヒビや変形がないか、定期的に点検します。損傷がある場合、交換してください。
- 防振装置がエンジンユニットとハンドルユニットの間にしっかりと固定されていることを確認します。

マフラー

警告! マフラー無しの製品や欠陥のあるマフラーを装着した製品は決して使用しないでください。マフラーに損傷があると騒音レベルや火災の危険性が高くなります。消火装置をすぐ使用できるように用意しておいてください。

マフラーは使用中や使用直後、アイドリング時に非常に熱くなります。特に可燃物や可燃性ガスの近くで作業をするときは、火災の危険性に注意してください。

消火装置をすぐ使用できるように用意しておいてください。

マフラーは騒音のレベルを最小限に抑え、排気ガスを使用者から遠ざける働きをします。

マフラーの点検

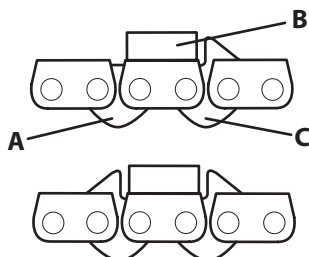
- マフラーが完全に正常で、正しく固定されていることを定期的に確認します。

ダイヤモンドチェーン

全般

警告! チェーンが破損して、作業者に向かって飛んだ場合、重傷を負う危険性があります。

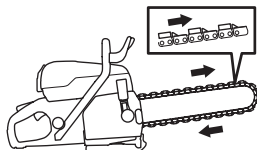
カッティング装置に欠陥があったり、ガイドバーとダイヤモンドチェーンの組み合わせが誤っていたりすると、キックバックの危険性が高まります! 推奨のガイドバーとダイヤモンドチェーンの組み合わせのみを使用してください。

ダイヤモンドチェーンには 2 つの基本型があります。

A) デプス付きのドライブリンク

B) ダイヤモンドセグメント付きのカッターリンク

C) ワッシャーなしのドライブリンク

デプスが 2 個付いたチェーンを使用すると、どちらの方向でも取り付けることができます。

デプスが 1 個のみの場合、必ずチェーンを正しい方向に取り付けてください。デプスは、切削箇所でセグメントを正しい高さにガイドします。

チェーンの点検

- チェーンにリンクの遊び、デプスやドライブリンクの破損、セグメントの破損などの損傷がないか確認します。
- チェーンにひどい詰まりなどの異常な過負荷がある場合には、チェーンをバーから取り外して、入念に点検してください。

ソーの点検

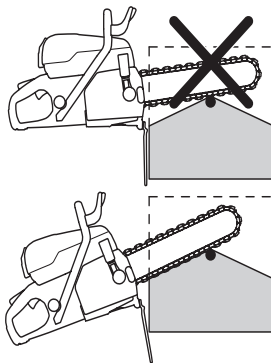
ソーには、チェーンが破損した際に作業者を保護する安全機能が多数装備されています。作業を開始する前に、安全機能を必ず確認してください。以下の部品に損傷や紛失がある場合には、絶対にソーを使用しないでください。

- ドライブギアのカバー
- ハンドガードの損傷や紛失
- チェーンの損傷
- スプレーガードの損傷や紛失
- リヤ右手ガードの損傷

材質

警告! いかなる状況でも、ダイヤモンドチェーンソーを指定された以外の材料を切断する用途に転用しないでください。木材伐採用のソーチェーンは絶対に装着しないでください。

本機は、コンクリート、れんが、さまざまな石材の切断を目的として設計されています。他の用途に使ってはいけません。

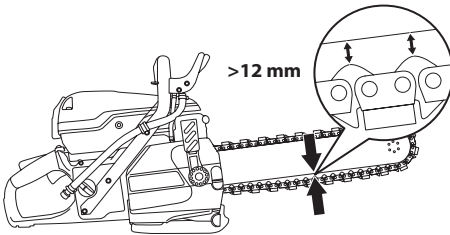
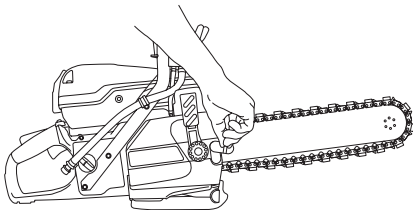
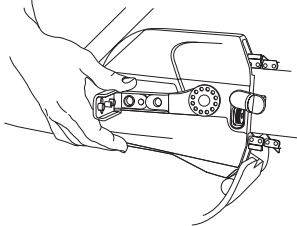
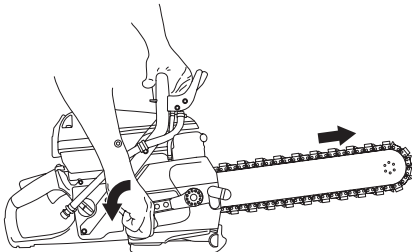
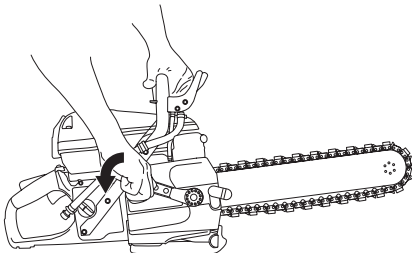
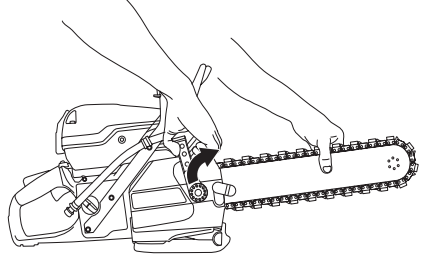
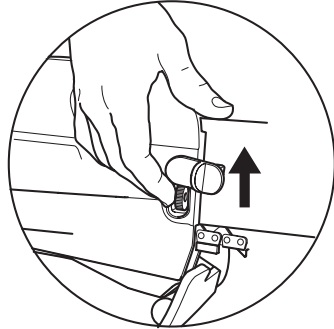
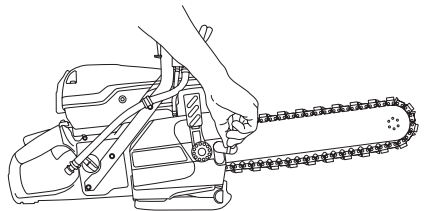
純金属の切断にソーを決して使用しないでください。この目的に使用した場合、セグメントやチェーンが破損するおそれがあります。ダイヤモンドセグメントは鉄筋コンクリートも切断できます。鉄筋の切断時には、できるだけ大量のコンクリートとともに切断するようにすると、チェーンを保護できます。

目立て

硬度の高いコンクリートや石材を切断すると、ダイヤモンドセグメントの切断能力が落ちることがあります。低い分圧での切断を余儀なくされる場合にも切断能力が落ちることがあります（ダイモンドチェーンをバー全長にわたり切削材料に当てて切断する場合）。こうした問題は、砂岩やレンガなどの研磨剤を短時間切断すると解決できます。

搬送と保管

- 作業が完了した後、ダイヤモンドチェーンソーを最低 15 秒間水圧下で作動し、バー、チェーンおよび駆動機構の粒子を洗浄します。本機を水ですすぎます。本機をしばらく使わない場合には、防蝕のためチェーンとバーにオイルを塗布することを推奨します。
- カッティング装置に搬送や保管による損傷がないか、必ず点検してください。

ソーチェーンの張りの調整

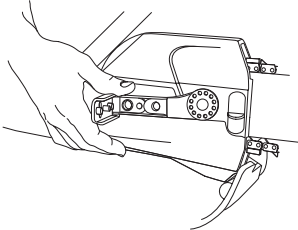
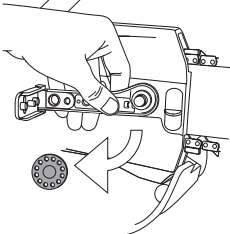
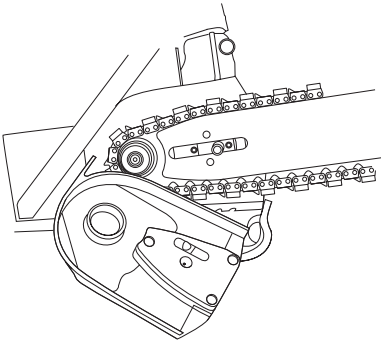
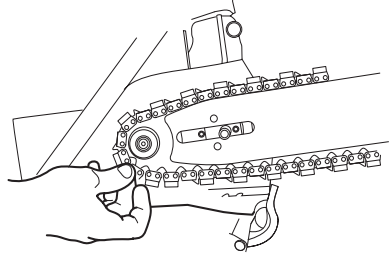
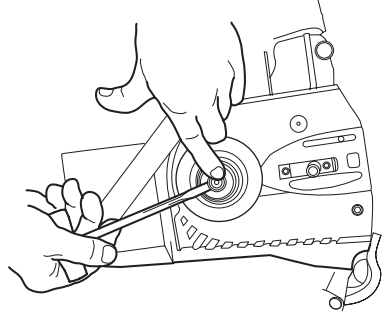
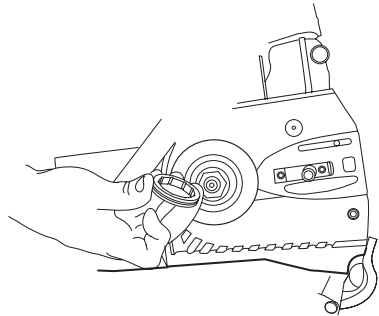
- ドライブリンクとバー間の遊びが 12 mm を超える場合には、チェーンが緩んでいるので、張力を調整する必要があります。

- 調整ネジカバーを開きます。

- ハンドルを後方に引きます。

- チェーンが張るまで、ハンドルを下方向に動かします。

- バーを上方で押さえて、ハンドルを前方に動かします。

- カウンタネジを締め込んで、チェーンの張りをロックします。

- 調整ネジカバーを閉じます。

チェーンは張力が適切に調整されていると、手で簡単に引っ張ることができます。

チェーンとリムの交換

注意! これまで使用したチェーンを再度取り付ける場合、必ず取り外す前と同じ方向に作動するように取り付けてください。こうすると、セグメントの摩耗を低減し、切断能力を最適に維持できます。

チェーンを誤った方向に取り付けないよう注意してください。デプスは、切削箇所でセグメントを正しい高さにガイドします。

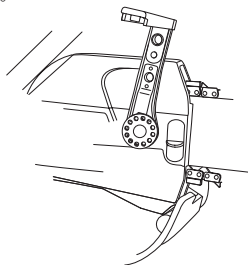
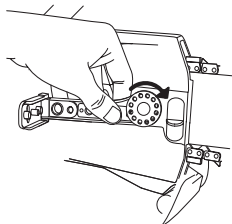
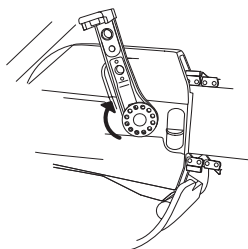
チェーンの交換時にバーを回転すると、バーの寿命を最大に延長できます。

- ハンドルを後方に引きます。

- チェーンのテンショナハンドルのスプリングを押し下げます。調整用のバーナットを反時計方向に回して緩めます。

- カバーを外します。

- バーとチェーンを取り外します。

- 「半月型」部品 2 個を支えるスプリングをスクリュードライバーで取り外します。

- 「半月型」部品、カップガード、O リングおよびドライブスプロケットを取り外します。

- 逆の順序で部品を組み立てます。

重要事項! 再度取り付ける際に、外カバーが内カバーにきちんとはまっているか確認してください。そうしないと、カバーが損傷するおそれがあります。

チェーン調整ピンがバーの穴にきちんと入っているか確認してください。

バーナットの締め込み

バーとチェーンテンショナハンドルが緩く感じた場合には、ナットの張力モーメントが適切になるまでバーナットを締め込む必要があります。これにより、バーの緩みも解決されます。

- レバーを後方に動かして、低い位置にします。チェーンテンショナハンドルのスプリングを押し込んで、バーナットを手で時計方向に回します。

- スプリングを放します。バーを上方で押さえて、ハンドルを前方に動かします。アームのメカニカルストップが入らないよう注意してください。ストップが入っていると、アームが前方に向かず、切断できなくなります。

全般

警告! 狭い場所や換気の悪い場所でエンジンをかけると窒息死や一酸化炭素中毒の原因となることがあります。1 メートル以上の深い溝や堀などで作業する場合、ファンを使用して適切な換気を確保してください。

燃料や燃料ガスは、非常に可燃性が高く、人間が吸いこんだり、皮膚に付着したりすると深刻な傷害を引き起こすおそれがあります。このため、燃料の取り扱いには細心の注意を払い、十分な換気を確保するようにしてください。

エンジンの排気ガスは高温で火花を含むこともあり、火災発生の原因となります。屋内や可燃物のそばでは、決して本機を始動しないでください!

燃料付近では、喫煙したり、熱い物体を置いたりしないでください。

燃料

注記! 本機は 2 サイクルエンジンを搭載しているため、運転にはガソリンと 2 サイクルオイルの混合燃料が必要です。正しい割合で混合するには、オイルの量を正確に計量することが重要です。少量の燃料を混合する場合は、わずかな誤差でも配合に多大な影響を及ぼすことがあります。

ガソリン

- 良質の無鉛または有鉛ガソリンを使用してください。
- 推奨する最低オクタン価は 90(RON)です。オクタン価が 90 未満のガソリンを使用すると、ノッキングの原因となります。ノッキングが起きるとエンジンの温度が上がって、エンジンの深刻な損傷につながることがあります。
- 高回転を継続させて作業する場合、オクタン価の高いガソリンを推奨します。

環境に優しい燃料

ハスクバーナは、Aspen(アスペン) 2 サイクル燃料または 4 サイクルエンジン用のエコガソリンに 2 サイクルオイルを下表の通り混合したもののいずれかの、アルキレート燃料の使用を推奨します。燃料のタイプを変更した場合、キャブレターの調整が必要です。ご注意ください(「キャブレター」参照)。

エタノールを混合した燃料、E10 が使用できます(エタノールの混合率最大10 %)。E10 を超えるエタノール混合燃料の使用は、動作条件を劣化させて エンジンの損傷を引き起こします。

2 サイクルエンジンオイル

- 最良の効果と性能を得るには、ハスクバーナ 2 サイクルエンジンオイルをご使用ください。このオイルは本機に使用される空冷式 2 サイクルエンジン用として特別に調合されています。
- アウトボードオイル(TCW)とも呼ばれる水冷エンジン用の 2 サイクルオイルは絶対に使用しないでください。
- 4 サイクルエンジンオイルも絶対に使用しないでください。

混合

- ガソリンとオイルを混合するときは、必ず清潔な燃料用容器をご使用ください。
- 必ず使用予定の半量のガソリンを、最初に容器に入れます。次にオイルの全量を入れます。燃料の混合物を良く混ぜ(振り)ます。最後に残りのガソリンを加えます。
- 燃料タンクに給油する前に、混合燃料を良く混ぜ(振り)ます。
- 1 ヵ月分以上の混合燃料を一度に作らないでください。

混合比

- ハスクバーナ 2 サイクルオイルまたは同等のものを使用の場合、1:50(2 %)にしてください。

ガソリン、リットル	2 サイクルエンジンオイル、リットル
	2 %(1:50)
5	0.10
10	0.20
15	0.30
20	0.40

- 空冷 2 サイクルエンジン用に調合されたオイルクラス JASO FB または ISO EGB、またはオイル製造者の推奨に従って混合したものを使用する場合、1:33(3 %)にしてください。

燃料の取り扱い

給油

警告！火災を避けるため、以下の注意を守ってください。

燃料付近では、喫煙したり、熱い物体を置いたりしないでください。

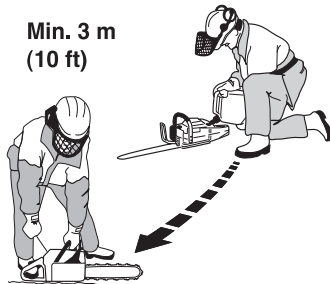
給油をする前には、必ずエンジンを止めて数分間温度が下がるのを待ってください。停止スイッチを STOP 位置にして、エンジンを切ってください。

給油の際には、超過圧力が徐々に放出されるよう、燃料キャップをゆっくり開けてください。

燃料キャップの周囲をきれいにしてください。

給油後は燃料キャップをしっかり閉めてください。

キャップがしっかりしまっていない場合、キャップが振動で緩くなり、燃料が燃料タンクからもれて火災が発生するおそれがあります。

給油後は、給油した場所から少なくとも 3 m 離れたところで始動してください。

下記の条件では、決して本機を始動しないでください。

- 本機に燃料やエンジンオイルをこぼしたとき。きれいに拭き取り、表面に残った燃料が蒸発するのを待ちます。
- 皮膚や衣服に燃料がかかったときは着替えます。皮膚についた燃料を洗い流してください。石鹸と水を使用します。
- 燃料が漏れている場合。燃料キャップと燃料ホースの漏れを定期的に点検してください。
- 燃料充填後に燃料キャップをしっかり締めていない場合。

搬送と保管

- 本機と燃料は、電気機器、電気モーター、リレー／スイッチ、ボイラーなど、火花や裸火を発するものから離して保管・運搬し、液体漏れやガスによる火災発生の危険性をなくしてください。
- 燃料の保管や搬送を行う場合は、必ず認可された専用容器を使用してください。

長期保管

- 本機を長期間保管するときは、必ず燃料タンクを空にしてください。余剰燃料の廃棄場所は最寄りのガソリンスタンドにご相談ください。

身体保護具

全般

- 事故のときに、助けを求めることができない状況で、本機を使用してはいけません。

使用者の身体保護具

本機を使用するときは、認可のある身体防護具を必ず着用してください。身体防護具で負傷の危険性を排除できるわけではありませんが、万が一事故が起こった場合、負傷の度合いを軽減することができます。身体保護具の選択については、本機の販売店にご相談ください。

警告！材料の切断、粉砕、穴あけ、サンディング、形成を行う機械を使用すると、人体にとって危険な化学物質を含んだ粉塵や蒸気が生成されることがあります。加工する材料の性質を確認して、適切な呼吸マスクを使用してください。

長時間騒音にさらされることは、恒久的な聴覚障害の原因になることがあります。本機を使用する際は、品質保証のイヤマフを必ず着用してください。イヤマフを着用している間、警告信号や警告のために誰かが叫ぶ声を聞き逃さないように、気を付けてください。エンジンが停止したら、速やかにイヤマフを外してください。

常に下記のものを着用してください。

- 承認されたヘルメット
- 防音マフラー
- 認可された視覚保護具。防護マスクを使用する場合、認可された保護ゴーグルも着用する必要があります。認可された保護ゴーグルは、米国のANSI Z87.1あるいはEU諸国のEN 166規格に適合しなければなりません。バイザーは、EN 1731 規格に適合していなければなりません。
- 呼吸マスク
- 高耐久性で、物をしっかりつかむことができる保護手袋
- 体の動きを制限することのない、体にフィットした、丈夫で快適な服装 切断の際には火花が発生し、衣服に着火することがあります。防火綿または厚地のデニムを着ることを推奨します。ナイロン、ポリエステル、レーヨンなどの材質の衣服は着用しないでください。このような材質が発火した場合、溶けて肌にはりつく場合があります。短パンは着用しないでください。
- つま先部スチール製、ノンスリップ靴底の防護靴

他の身体保護装置/その他

注意！本機での作業中、火花や火が発生することがあります。常に、消化装置をお手元に装備してください。

- 消火器
- 常に救急箱を身近に備えてください。

一般的な安全注意事項

このセクションでは、本機の使用に際しての基本的な安全注意事項について説明します。記載された情報は、専門家の技術や経験に相当するものではありません。

- 本機をご使用になる前に、この取扱説明書を注意深くお読みいただき、内容を必ずご確認ください。作業者が初めて使用する場合、使用前に実践的な指示も受けることを推奨します。
- 周囲の人や彼らの財産を様々な事故や危険にさらさないようにする責任は、使用者としてのあなたにあることをしっかりと心にとめてください。
- 本機は常にきれいにしておいてください。目印やステッカーは、法規に完全準拠しなければなりません。

いつも常識のある取り扱いを

起こり得る状況をすべて予測し、対応することは不可能です。常に注意を払い、常識に適った使用方法で操作してください。安全性に懸念が生じたら、作業を停止し、専門家のアドバイスを受けてください。本機をお買い上げになった販売店、サービス代理店や熟練ユーザーなどに相談してください。確信をもてない作業は行わないでください！

警告！本機は危険を伴う道具です。不注意な使用や不適切な使用によって、使用者やその他の人々が重傷や致命傷を負う危険性があります。

子供や本機の扱いに不慣れな人間に本機を使用させないようにしてください。

本取扱説明書の内容を読んで、理解していない人には決して本機の使用を許可しないでください。

疲労時や飲酒後、視野・判断力・動作に影響を及ぼすような医薬品を服用したときは絶対に本機を使用してはいけません。

警告！承認を受けていない修正と付属品の使用、あるいはそのいずれかは、使用者や周囲の人に対して深刻な傷害をもたらすことがあります。いかなる理由であれ、製造者の承認を得ることなく本機の設計に変更を加えないでください。

本製品を改造したり、改造の疑いがある製品を使用しないでください。

欠陥のある本機は絶対に使用しないでください。この取扱説明書の内容に従って、安全点検、メンテナンス、サービスを行ってください。メンテナンスやサービスの内容によっては、専門家でなければできないものもあります。詳細は、「メンテナンス」を参照してください。

常に純正の部品をお使いください。

操作

警告! 本機は、運転中に電磁場を生成します。この電磁場は、場合によって能動あるいは受動的な医療用インプラントに影響を及ぼすことがあります。深刻なまたは致命傷の危険を避けるため、医療用インプラントを使用している人が本機を操作する前に、主治医およびペースメーカーの製造元に相談することをお奨めします。

作業エリアの安全

警告! パワーカッターの安全距離は 15 メートル(50 フィート)です。使用者は、動物や傍観者が、作業エリアにいないことを確認する責任を負っています。切断は、作業エリアに問題がなく、足場がしっかりしている場合にのみ、開始してください。

- 周囲の状況をチェックして、本機の使用に影響があるものを除去してください。
- 人間や物体がカッティング装置に接触しないこと、さらに、切断中に飛び散る物がぶつからないことを確認してください。
- 濃霧、豪雨、強風、厳寒など、気象条件の悪いときは、本機を使用しないでください。悪天候下での作業は、疲れやすく、また、足元が滑りやすくなるなど危険です。
- 作業エリアに余分なものがないことや、足場が安定していることを確認してから、本機の使用を開始してください。物が予期せずに移動してぶつかることがないように、注意を払ってください。切断時は、材料が崩れたり落下したりしないかを確認して、作業者がけがをしないように気をつけます。特に傾斜した場所で作業を行うときは 十分注意してください。
- 作業場の視界が十分に明るくなっており、安全な作業環境であることを確認してください。
- 配管や電気ケーブルが、作業エリアや切断する材料を通っていないことを確認してください。
- 容器(ドラム、パイプなど)を切断するときは、最初に、可燃性の物質や揮発性の物質が入っていないことを必ず確認してください。

水冷/粉塵管理

水冷却を必ず使用してください。水を使わずに切削すると、すぐにオーバーヒートを起こし、バーやチェーンが破損して人的傷害につながるおそれがあります。

流水でバーとチェーンを冷却するとともに、バーとドライブリンクから粒子を洗い流します。そのためには、高い水圧を掛けることが重要です。推奨の水圧と流水量については、「主要諸元」を参照してください。

製品を水の供給源に水ホースでつないでも、供給源から外れてしまうようなときは、水圧が高過ぎることを示しています。

水冷式切削は粉塵もしっかりと抑えてくれます。

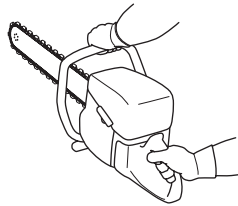
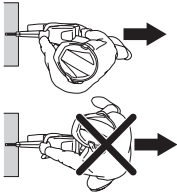
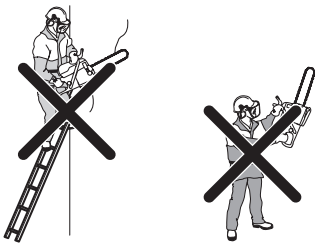
基本的な作業方法

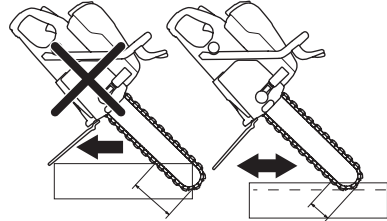
警告! ソーを横向きに立てかけないでください。チェーンの詰まりや破損が起こり、人的傷害が発生するおそれがあります。

いかなる場合でもバーとチェーンの側面で研磨はしないでください。損傷や破損を起こすだけでなく、それが重大な損害につながりかねません。刃先の部分のみを使用してください。

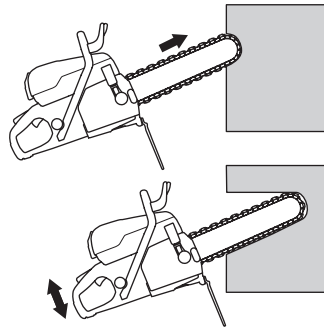
プラスチック材の切断にダイヤモンドチェーンを決して使用しないでください。切断中に熱が発生してプラスチックが溶けてチェーンに付着し、キックバックを起こすおそれがあります。

金属の切断は、火災の原因となる火花を発生させます。引火しやすい物質やガスの近くで本機を使用しないでください。

- 本機は、コンクリート、れんが、さまざまな石材の切断を目的として設計されています。他の用途に使ってはいけません。
- チェーンにリンクの遊び、デプスやドライブリンクの破損、セグメントの破損などの損傷の兆候がないか確認します。
- チェーンが正しく取り付けられており、損傷がないことを確認します。詳細は、「ダイヤモンドチェーン」および「メンテナンス」を参照してください。
- アスベスト材は切断しないでください!
- 本機を両手で持ち、親指と他の指で取り囲むようにしっかりハンドルを握ります。右手でリヤハンドル、左手でフロントハンドルを握ってください。右利き、左利きにかかわらず、必ずこの握り方をしてください。本機を片手だけで操作することは厳禁です。

- カッティングチェーンに対して並行に立ちます。本機の真後ろに立たないようにしてください。キックバックが発生した場合、パワーカッターはチェーン付きバーの水平面方向に動きます。

- エンジンの動作中は、カッティングチェーンから安全な距離を保ちます。
- モーターが作動している状態、および管理者のいない状態で本機を放置しないでください。
- カッティング装置を回転させたまま、本機を移動しないでください。
- バーのキックバックゾーンを**切断に**使用しないでください。詳細は、「キックバック」を参照してください。
- バランスを保ち、しっかりした足場を確保してください。
- 肩より高い位置で切断を行わないでください。
- ハシゴに乗って切断しないでください。肩より高い位置を切断する場合は、台や足場を利用してください。無理な体勢で作業しないでください。

- 切断対象物からほどよい距離に立ちます。
- 本機を始動するとき、カッティング装置に何も触れていないことを確認します。
- チェーンの回転を徐々に上げていき、高速回転（フルスロットル）にします。切断が終了するまでフル回転を維持します。
- チェーンを動作させるときは、ブレードに力を掛けたり、押しつけたりしないでください。
- バーとカッティングチェーンに合わせて本機を送ります。横からの圧力が加わると、バーとカッティングチェーンが損傷することがあり、非常に危険です。

- カッティングチェーンをゆっくりと前後に動かし、カッティングチェーンと切断対象物との間の接触面が小さくなるようにします。これにより、カッティングブレードの温度を低く保って、効率的に切断を行うことができます。

厚みのある対象物の切断プロセスを開始する場合、原則として以下の 2 つの方法があります。

プランジ切削法

- まず、バー先端の下方で壁面に深さ 10 センチの切込みを入れます。バー先端を溝に挿入すると同時に、ソーをまっすぐに立てます。壁面にソーを押し付けて上下させると、必要な深さまで効果的に切り込むことができます。

パイロットメソッド

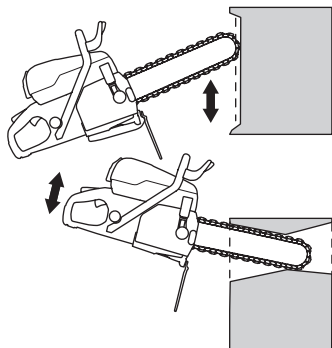
警告! 予備切削には、標準カッティングブレードを絶対に使用しないでください。カッティングブレードでは幅が十分でない溝しかできないので、その後ダイヤモンドチェーンソーで切削すると必ず、危険なキックバックが起きたり、溝にはさまったりします。

このメソッドは、直線や四角く切削する場合にお勧めします。

ハスクバーナの予備切削用特殊ブレードは、あとでダイヤモンドチェーンソーを使って切削することを想定して設計されています。これをパワーカッターに装着して、予備切削を行うと、最高の切削効率が得られます。

- まず、切削箇所に合わせて板を固定します。これが切削時のガイドになります。バー先端の下の方を使って、切削箇所全体にわたって数センチの深さの切り込みを入れます。元の場所に戻り、さらに数センチ深く切除します。溝の深さが 5〜10 センチ（必要な精度や対象物の厚さによる）になるまで繰り返します。予備切削をすることで、後の切削においてバーを真っすぐにガイドすることができ、プランジ切削法で最後まで切削することができます。また、切削部の資材が崩れたり、落ちたりしないようにゴム製ブロックを使用します。

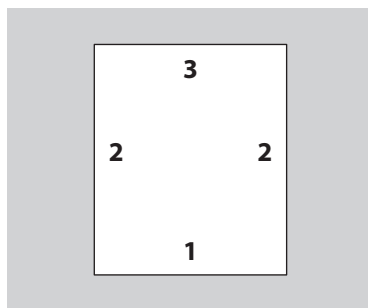
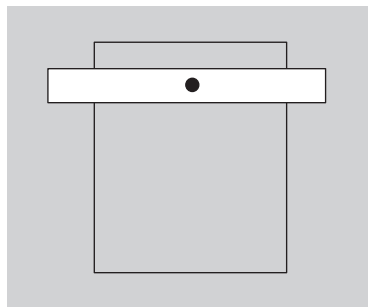
振り子技法

- この切削法では、ソーを切断部端でまっすぐに支持して、振り子のように動かします。

穴開け

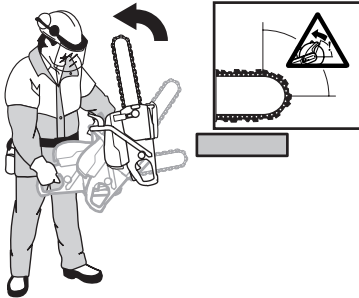
注記! 上側で行う水平方向の切断を、下側で行う水平方向の切断よりも前に行うと、作業対象物がブレードに落下し、ブレードが躯体に挟まることがあります。

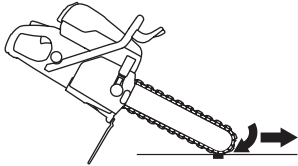
大型で重量のある作業対象物をダイヤモンドチェーンソーで切断する際には、作用力が大きすぎるため詰まりが発生し、これによりバーとチェーンの両方に回復不能な損傷が生じる可能性があります。

作業対象物が壊れても、作業者にバーが当たらないように作業の計画を立てます。作業者の安全を確保するには、計画も非常に重要です。

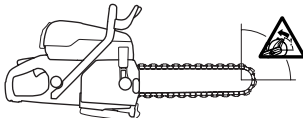
- まず、下側で水平方向の切断をします。次に、上側の水平方向での切断をします。最後に、2 つの垂直方向の切断をします。

- 大きい穴を開けるときは、切断する材料が作業者に向かって落ちてこないように固定することが重要です。

キックバック

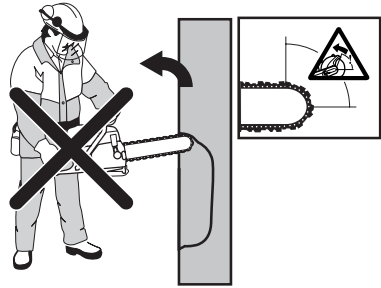
警告! キックバックは突然発生し、非常に危険な場合があります。パワーカッターが作業者に向かって回転しながら飛ばされて、人命にかかわる傷害を招くことさえあります。本機の使用前に、キックバックの原因と、その防ぎ方を理解することが非常に大切です。

キックバックとは、チェーンがキックバックゾーンで挟まったり、引っかかったりしたときに、パワーカッターが突然、上へ持ち上げられる現象です。ほとんどのキックバックは小規模で、それほど危険を伴わないものです。しかしながら、キックバックは非常に危険な挙動を発生させることがあり、作業者に向かってパワーカッターが回転しながら飛ばされて、人命にかかわるような事故が発生することもあります。

反作用力

切断時、反作用力は常に存在します。この力は、チェーン回転に対して逆の方向へ製品を引っ張るように働きます。通常、この力は問題にはなりません。チェーンが挟まったり、引っかかったりすると、反作用力は強力になり、パワーカッターをコントロールできなくなることがあります。

カッティング装置を回転させたまま、本機を移動しないでください。ジャイロ力により、意図した動きが阻害される場合があります。

キックバックゾーン

バーのキックバックゾーンを**切断に**使用しないでください。チェーンがキックバックゾーンで挟まったり、引っかかったりすると、反作用力により、作業者に向かってパワーカッターが回転しながら飛ばされて、人命にかかわるような事故が発生することもあります。

クライミングキックバック

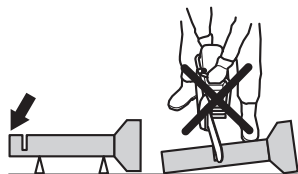
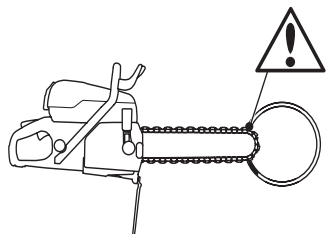
キックバックゾーンで切断を行うと、反作用力によりチェーンが切断箇所から持ち上がります。キックバックゾーンを使用しないでください。クライミングキックバックを回避するために、バーの下部、四分の一を使用してください。

ピンチングキックバック

ピンチングとは、切断部が閉じて、カッティング装置を挟んでしまうことです。チェーンが挟まったり、引っかかったりすると、反作用力は強力になり、パワーカッターをコントロールできなくなることがあります。

チェーンがキックバックゾーンで挟まったり、引っかかったりすると、反作用力により、作業者に向かってパワーカッターが回転しながら飛ばされて、人命にかかわるような事故が発生することもあります。作業対象物が動く可能性があるので、注意してください。切断対象物の動きなど、想定されるいかなる可能性に対しても注意を払ってください。切断面が閉じて、カッティング装置が挟まれることがあります。

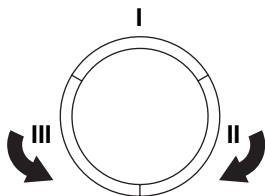
パイプ切断

パイプを切断する場合、特に注意すべきことがあります。パイプがしっかりと保持されておらず、切断時、切断部が開状態を維持している場合、バーがキックバックゾーンで挟まり、危険なキックバックが発生することがあります。先端が鐘型に広がったパイプや、トレンチに入っていてしっかりと保持されていないために、たわんでブレードが挟まる可能性のあるパイプを切断するときは、特に注意してください。

切断を開始する前に、切断中動いたり回ったりしないように、パイプをしっかり固定する必要があります。

パイプがたわんで切削部が閉じると、キックバックゾーンでバーが挟まれ、激しいキックバックが起きる可能性があります。パイプがしっかりと保持されていれば、パイプの端が下に動くことで切断部が開き、挟まれることはありません。

パイプを切断する正しい順序

1 最初に、セクション I を切断します。

2 サイド II に移動して、セクション I からパイプの底部まで切断します。

3 サイド III に移動して、底部のパイプの端部の残りの部分を切断します。

キックバックの避け方

キックバックの回避は簡単です。

- 加工物は常に保持して、切断の最後まで切断部が閉じないようにしてください。切断部が開いていれば、キックバックは発生しません。切断部が閉じて、カッティング装置が挟まると、必ずキックバックが発生します。

- 既存の切れ目にチェーンを挿入するときは注意してください。狭い切込みに挿入して切削することは絶対におやめください。
- 切断対象物の動きなど、想定されるいかなる可能性に対しても注意を払ってください。切断面が閉じて、カッティング装置が挟まれることがあります。

搬送と保管

- 搬送の間、損傷や事故が起こらないように、機器をしっかりと固定してください。
- ダイヤモンドチェーンの搬送と保管については、「ダイヤモンドチェーン」をご参照ください。
- 燃料の輸送と保管については、「燃料の取扱」をご参照ください。
- 装置を鍵のかかる場所に保管し、子供や、承認を受けていない人が触れることのないようにしてください。

始動と停止

始動前に

警告! 始動時には以下の注意点を守ってください: 本機をご使用になる前に、この取扱説明書を注意深くお読みいただき、内容を必ずご確認ください。

身体保護具を着用してください。「使用者の防護装備」の項の説明を参照してください。

ベルトまたはベルトガードが取り付けられていない状態で、本機を始動させないでください。クラッチが外れてけがをすることがあります。

燃料キャップが正しく固定されており、燃料漏れがないことを確認してください。

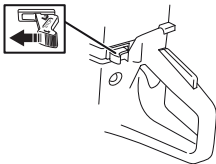
深刻な傷害を引き起こす危険があるので、関係者以外の人間が作業エリアに入れないようにしてください。

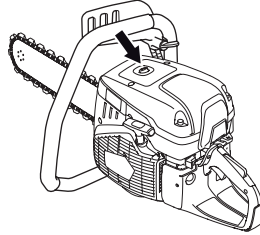
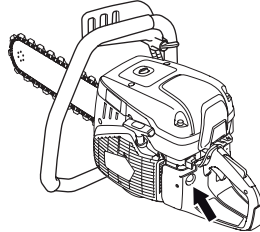
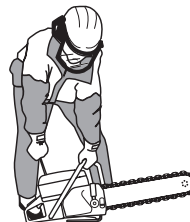
- 毎日のメンテナンスを実施してください。詳細は、「メンテナンス」を参照してください。

始動

警告! カッティングブレードは、エンジンが始動すると回転します。正常に回転していることを確認してください。

常温エンジンの場合:

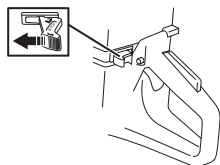
- 停止スイッチ(STOP)が、左の位置にあることを確認してください。

- チョークコントロールを完全に引き出すことにより、スタートスロットル位置とチョークの状態にすることができます。

- **デコンププバルブ:** シリンダー内の圧力を下げるため、バルブを押してください。これは、パワーカッターの始動を助けるためのものです。デコンプバルブは、始動時には必ず使用してください。本機が始動すると、バルブは自動的に初期位置に戻ります。

- 燃料がダイアフラムを満たし始めるまでエアパージダイアフラムを繰り返し押します(約6回)。ダイアフラムが満杯になるまで充填する必要はありません。

- 左手でフロントハンドルを握ります。後ろハンドルの下側に右足を乗せ、チェーンソーを地面に押し付けます。エンジンが始動するまで、右手でスターターハンドルを押します。**スターターロープは絶対に手に巻き付けないでください。**

- エンジンが始動したら素早くチョークコントロールを押します。チョークが引き出された状態のままだと、エンジンは数秒後に停止します（エンジンが停止した場合、スターターハンドルを再び引きます。）
- スロットルトリガーを押してスタートスロットルを解除すると、本機は アイドリング状態になります。

注記! 抵抗を感じるまで（スターター爪が噛み合うまで）右手でスターターロープをゆっくり引いて、抵抗を感じたら一気に強く引きます。

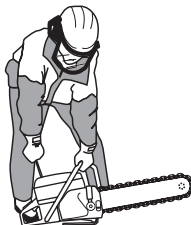
スターターロープをいっぱいに引き出したところから、スターターハンドルを急に放さないでください。製品に損傷を与える恐れがあります。

暖機エンジンの場合：

- 停止スイッチ（STOP）が、左の位置にあることを確認してください。

- チョークコントロールをチョーク位置に引きます。チョーク位置にすると、自動スタートスロットル位置にもなります。

- **デコンプバルブ：** シリンダー内の圧力を下げるため、バルブを押してください。これは、パワーカッターの始動を助けるためのものです。デコンプバルブは、始動時には必ず使用してください。本機が始動すると、バルブは自動的に初期位置に戻ります。

- チョークコントロールを押してチョークを無効にします（スタートスロットル位置はそのままです）。

- 左手でフロントハンドルを握ります。後ろハンドルの下側に右足を乗せ、チェーンソーを地面に押し付けます。エンジンが始動するまで、右手でスターターハンドルを押します。**スターターロープは絶対に手に巻き付けないでください。**

- スロットルトリガーを押してスタートスロットルを解除すると、本機は アイドリング状態になります。

注記! 抵抗を感じるまで（スターター爪が噛み合うまで）右手でスターターロープをゆっくり引いて、抵抗を感じたら一気に強く引きます。

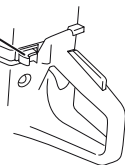
スターターロープをいっぱいに引き出したところから、スターターハンドルを急に放さないでください。製品に損傷を与える恐れがあります。

警告! エンジンの動作中、排気ガスには不燃焼の炭化水素や一酸化炭素などの化学物質が含まれています。このような排気ガスの含有物は、呼吸器障害、ガン、先天異常その他生殖障害の原因となることが知られています。

一酸化炭素は無色、無味で、排気ガスには必ず含まれています。一酸化炭素中毒の徴候は、軽度のめまいで、本人が認識できる場合も、できない場合もあります。一酸化炭素の濃度が高い場合、突然倒れ、意識を失う場合があります。一酸化炭素は無色無臭であるため、存在するかどうかを把握できません。排気臭がする場合は必ず、一酸化炭素が存在します。ガソリン駆動のパワーカッターは、屋内や 3 フィート（1 m）以上の深さの溝など、換気の悪い場所では絶対に使用しないでください。溝やその他密閉された場所で作業をする場合は、必ず換気を適切に行ってください。

停止

注意！チェーンは、モーターが停止した後も1分間程度回転を続けます。（チェーンの惰性回転。）チェーンが完全に停止するまで、そのまま回転させてください。不注意により、大けがをすることがあります。

- 停止スイッチ（STOP）を右に移動させることで、エンジンが停止します。

メンテナンス

全般

警告! 使用者は本取扱説明書に記載されているメンテナンスとサービスだけを実施してください。本書に記載されている内容以外のメンテナンスは、必ずお近くのサービス代理店(販売店)に依頼してください。

停止スイッチをSTOP位置にして、エンジンを切ってください。

身体保護具を着用してください。「使用者の防護装備」の項の説明を参照してください。

本機のメンテナンスを適切に行わなかったり、整備・修理を専門技術者に依頼しなかったりすると機械の寿命を縮め、事故発生の危険性が増します。詳しくは、お近くのサービスショップにお問い合わせください。

- ハスクバーナの販売店には定期的にマシンの検査をさせ、不可欠な調整や修理を行わせてください。

メンテナンススケジュール

メンテナンススケジュールにより、メンテナンスが必要なマシンの箇所と、それを実施すべき頻度が分かります。実施間隔は、マシンが毎日使用されることを前提に算出されていて、使用頻度によって異なります。

毎日行うメンテナンス	毎週行うメンテナンス	毎月行うメンテナンス
清掃	**清掃**	**清掃**
外部の清掃		スパークプラグ
冷却用吸気口		燃料タンク
機能検査	**機能検査**	**機能検査**
一般点検	防振装置*	燃料システム
スロットルロック*	マフラー*	エアフィルター
停止スイッチ*	駆動ベルト	ドライブギア、クラッチ
ハンドガード、リヤ右手ガード、クラッチカバーおよびスプレーガード*	キャブレター	
バーとダイヤモンドチェーン**	スターターハウジング	

*「本機の安全装置」を参照してください。

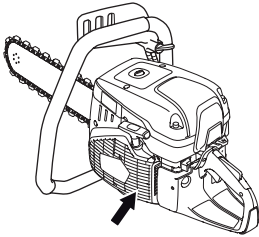
**「ダイヤモンドチェーン」、「取り付けと調整」および「メンテナンス」を参照してください。

清掃

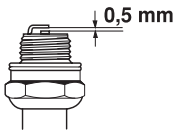
外部の清掃

- 作業の終了時にはいつも本機をきれいな水で洗浄してください。

冷却用吸気口

- 必要に応じて冷却用吸気口を清掃してください。

注記! 吸気口が汚れたり詰まっていると、本機が過熱状態になり、ピストンやシリンダーに損傷を与えることになります。

スパークプラグ

- エンジンのパワーが出ない、なかなか始動しない、アイドリングが安定しないなどの場合は、まずスパークプラグを点検してください。
- 感電の危険を回避するために、スパークプラグキャップやイグニションリードが損傷していないことを確認してください。
- スパークプラグが汚れていたら、きれいにしてから電極ギャップが 0.5 mm あるかどうか確認します。必要なら交換します。

注記! 必ず指定のタイプのスパークプラグを使用してください! 不適切なスパークプラグを使用すると、ピストンやシリンダーが破損する原因となります。

上記の要因によりスパークプラグ電極にカーボンが付着し、運転中の不具合や始動困難などの原因となります。

- 誤った燃料調合(オイル過多または不適切な種類のオイルの使用)
- エアフィルターの汚れ

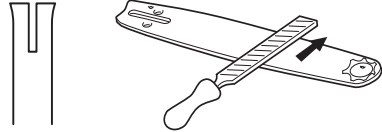
機能検査

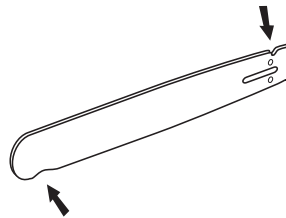
一般点検

- ナットおよびネジが確実に締められているかどうかを確認します。

ガイドバー

下記の項目を定期的に点検してください:

- ガイドバーの縁にバリがないか。必要に応じヤスリをかけます。

- ガイドバーのレール溝の摩耗が激しくないか。必要に応じガイドバーを交換します。

- ガイドバーの先端が欠けていないか、摩耗が激しくないか。ガイドバーの先端下側にへこみができている場合、ソーチェーンのたるみが原因です。

- ガイドバーの寿命を延ばすには、ダイヤモンドチェーンの交換時にバーを上下反転させてください。

キャブレター

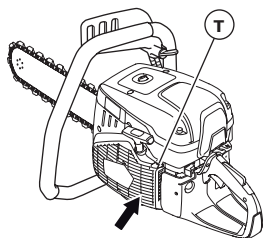
キャブレターには固定ニードルが取り付けられており、燃料と空気の適切な混合気が 常に本機に供給されるようになっています。エンジンのパワーが足りないとき、加速が悪いときは、以下のことを行います。

- エアフィルターを点検し、必要に応じて交換します。効果がないときは、弊社指定のサービスショップに問い合わせてください。

アイドリング速度の調整

注意! アイドリング設定が調節できず、ブレードが動かない場合は、販売店またはサービスショップにご連絡ください。本機のご使用は、調整または修理が完了するまでお控えください。

エンジンを始動し、アイドリング設定をチェックします。キャブレターが正しく設定されていると、カッティングブレードはアイドリング時に静止状態になるはずです。

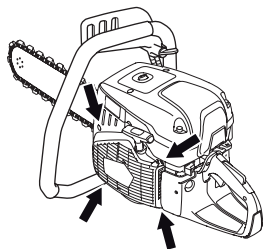
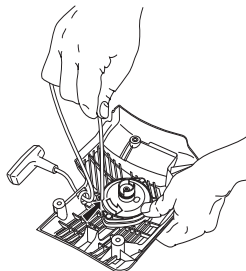
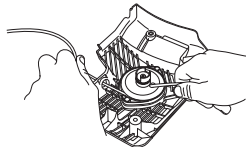
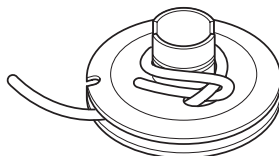
- アイドリング速度の調整は T ネジで行います。調整が必要なときは、ブレードが回転を開始するまで、ネジを時計回りに回します。次に、ブレードが回転を停止するまで、ネジを反時計回りに回します。

推奨アイドリング速度: 2700 rpm

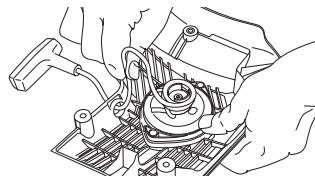
スターターハウジング

警告! リコイルスプリングは張力を持った状態でスターターハウジングに組み込まれているため、不注意に取り扱うとスプリングが飛び出してけがをすることがあります。

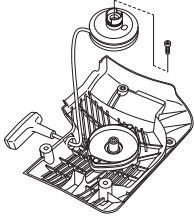
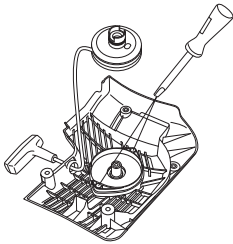
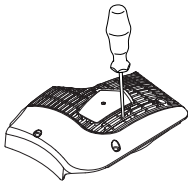
リコイルスプリングやスターターロープを交換するときは、常に注意を払って行ってください。必ず防護ゴーグルを着用してください。

破損したり消耗したスターターロープの交換

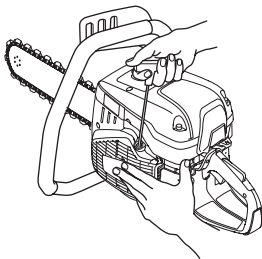
- スターターをクランクケースに固定しているネジを緩め、スターターを外します。

- コードを約 30 cm 引き、スタータープーリーの表面のカットアウトまで持ち上げます。コードに損傷がない場合: プーリーをゆっくりと逆に回転させ、スプリングのテンションを緩めます。

- 古いスターターロープの残りの部分を取り除き、リターンスプリングが動作することを確認します。新しいスターターロープをスターターハウジングとローププーリーの穴を通して挿入します。

- スターターロープを、図のとおりに、ローププーリーの周りに固定します。締め具をよく締めて、自由端が可能な限り短くなるようにします。スターターロープの終わり部分をスターターハンドルに固定します。

リコイルスプリングのテンション調整

- コードをプーリーの表面のカットアウトを通して導き、スタータープーリーの中心の周りにコードを 3 回時計回りに巻きつけます。

- 次にスターターハンドルを引き、それによってスプリングにテンションを与えます。もう一度、同じ手順を繰り返しますが、今度は 4 回巻きます。
- スプリングにテンションを掛けた後、スターターハンドルが正しくホームポジションにあることを確認します。
- スターターラインを完全に引き、スプリングが最終位置にないことを確認します。親指でスタータープーリーを緩め、プーリーが少なくとも反回転することを確認します。

破損したリコイルスプリングの交換

- プーリーの中心のボルトを外し、プーリーを取り外します。

- スターターハウジング内のリターンスプリングにはテンションが掛かっていますので、ご注意ください。
- スプリングカセットを固定しているボルトを緩めます。

- ドライバーを使用して、スターターを回し、フックを緩めることで、リコイルスプリングを外します。フックは、スターター上のリターンスプリングアセンブリーを保持しています。

- リコイルスプリングに経由を塗布します。プーリーを取り付け、リコイルスプリングにテンションを掛けます。

スターターの取り付け

- スターターを取り付けるには、まずスターターロープを引き出し、スターターをクランクケースにあてがいます。次にプーリーに爪がかかるよう、スターターロープをゆっくりと戻します。

- ねじを締めます。

燃料システム

全般

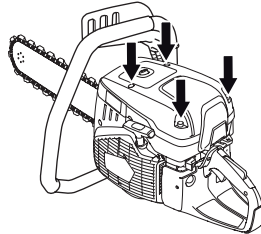
- 燃料キャップとシール部に損傷がないことを確認します。
- 燃料ホースを点検します。損傷があるときは交換します。

燃料フィルター

- 燃料フィルターは、燃料タンクの内部にあります。
- 燃料タンクは、給油時に不純物が入ることがないよう、保護する必要があります。これによって、タンク内の燃料フィルターが詰まることによって、動作上の障害が起きるリスクを減少させることができます。
- フィルターが目詰まりした場合は、清掃することはできません。新しいものと交換してください。**燃料フィルターは、少なくとも年に 1 度交換してください。**

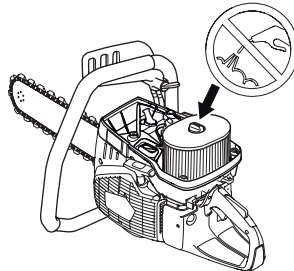
エアフィルター

エンジンの力が落ちている場合、エアフィルターのみを点検する必要があります。

- ねじを緩めます。エアフィルターカバーを取り外します。

- エアフィルターを点検し、必要に応じて交換します。

エアフィルターを清掃します。

注記! エアフィルターは、圧縮空気で掃除しないでください。フィルターを傷つけることがあります。

- ネジを外します。

- エアフィルターを交換します。

ドライブギア、クラッチ

- クラッチセンター、ドライブギア、およびクラッチスプリングに摩耗がないか点検します。

トラブルシューティング

警告! サービスやトラブルシューティングを行う際に電源を入れる必要がない場合には、エンジンを切って、停止スイッチを STOP の位置に入れてください。

問題	考えられる原因	考えられる解決策
本機が始動しない	始動の手順が間違っている	詳細は、「始動と停止」を参照してください。
	停止スイッチが停止（STOP）の位置にある	停止スイッチ（STOP）が、左の位置にあることを確認します。
	燃料タンクに燃料がない	燃料を補給します。
	スパークプラグの不良	スパークプラグを交換します。
	クラッチの不良	サービス代理店に問い合わせてください。
アイドリング状態でもチェーンが回転する	アイドリング速度が速すぎる	アイドリング速度を調整します。
	クラッチの不良	サービス代理店に問い合わせてください。
スロットルを押してもチェーンが回転しない	チェーンの張りが強すぎる。ダイヤモンドチェーンは常にガイドバーから手で引っ張ることができる状態にしてください。ダイヤモンドチェーンリンクがガイドバーの下に垂れ下がっている状態が正常です。	チェーンの張りの調整については、「取り付けと調整」を参照してください。
	クラッチの不良	サービス代理店に問い合わせてください。
	ブレードが正しく取り付けられていない	ブレードが正しく取付けられているか確認します。
スロットルを押してもパワーが出ない	エアフィルターが詰まっている	エアフィルターを点検し、必要に応じて交換します。
	燃料フィルターが詰まっている	燃料フィルターを交換します。
	燃料タンクのタンク通気孔が詰まっている	サービス代理店に問い合わせてください。
振動が大きすぎる	ブレードが正しく取り付けられていない	カッティングブレードが正しく取り付けられており、損傷がないことを確認します。詳細は、「カッティングブレード」および「取り付けと調整」を参照してください。
	ブレードの不良	損傷のないブレードに交換します。
	防振装置の不良	サービス代理店に問い合わせてください。
本機の温度が異常に高くなる	空気取り込み口または冷却フランジがふさがっている	本機の空気取り込み口／冷却フランジを掃除します。
	クラッチ滑り／不良	常時フルスロットルで切削します。
		クラッチを点検します／サービス代理店に問い合わせます。
切断速度が低すぎる	ダイヤモンドの目立てが必要か、送り圧力が低すぎる	砂岩やレンガなどの軟質の研磨剤を短時間切断します。
チェーンストレッチの早期摩耗。	水圧が不十分。水の供給が不十分なため、ダイヤモンドチェーンが過剰に摩耗し、切断力の低下やダイヤモンドチェーンの破損が発生するおそれがあります。	水圧を上げます。
ダイヤモンドチェーンがはじかれるまたは跳ぶ	チェーンの張りが不適切	チェーンの張りの調整については、「取り付けと調整」を参照してください。
	ソーをダイヤモンドチェーンセグメントの幅よりも狭い溝に挿入している	詳細は、「操作」を参照してください。
	切削時に送り圧力が不十分	ソーが跳ねたり、ガタガタ音が出たりしないようにします。

主要諸元

主要諸元	K970 II チェーン
エンジン	
排気量、cm^3/立方インチ	93.6/5.7
シリンダー内径、mm/インチ	56/2.2
行程、mm/インチ	38/1.5
アイドリング回転数、rpm	2700
フルスロットルー負荷なし、rpm	9300（+/- 150）
出力、kW/hp @ rpm	4.8/6.5 @ 9000
イグニションシステム	
イグニションシステムのメーカー	SEM
イグニションシステムの型式	CD
スパークプラグ	Champion RCJ 6Y/NGK BPMR 7A
電極間隔、mm/インチ	0.5/0.02
燃料および潤滑システム	
キャブレターのメーカー	Walbro
キャブレターの型式	RWJ-7
燃料タンク容量、リットル/米国液量オンス	1/33.8
水冷却	
推奨水圧、バール/PSI	1.5～10/22～150
推奨水量、リットル／分／ガロン（米国）／分	8/2

質量	
質量（燃料とチェーンを除く）、kg/lb	9.7/21.4

騒音排出（注記 1 を参照）	
音響パワーレベル、測定値 dB（A）	114
音響パワーレベル、L_{WA} dB（A）により保証	115
騒音レベル（注記 2 を参照）	
使用者聴覚での等価騒音レベル、dB（A）	104
等価振動レベル、a_{hveq}（注記 3 を参照）	
フロントハンドル、m/s^2	3.6
リヤハンドル、m/s^2	4.7

注記 1：環境における騒音の排出は、EC 指令 2000/14/EC に従って、音響パワー(L_{WA})として測定。保証音響と計測音響の違いは、保証音響に計測結果のばらつきと、同じモデルの異なる刈払機間の変動が含まれているためです。これは指令 2000/14/EC に則っています。

注記 2：等価騒音レベルは EN ISO 19432 に則し、さまざまな作動状態における騒音レベルの時間加重エネルギーとして計算しています。報告データによれば、製品の等価騒音レベルの一般的な統計上のばらつき（標準偏差）は 1 dB（A）です。

注記 3：等価振動レベルはEN ISO 19432に則し、さまざまな作動状態における振動レベルの時間加重エネルギーとして計算しています。EN ISO 22867 に準じた試験条件を適用 報告データによれば、等価振動レベルの一般的な統計上のばらつき（標準偏差）は $1 m/s^2$ です。

カッティング装置

バーとダイヤモンドチェーン	ダイヤモンドチェーンセグメント数	ダイヤモンドチェーンセグメントの幅、mm/インチ	ダイヤモンドチェーンのピッチ、mm/インチ	最大切断深度、mm/インチ	チェーン最大速度、エンジン出力回転数、m/s / フィート/s
14 インチ（350 mm）	32	5.7/0.22	9.525 / 3/8	390/15	26/85

EC 適合性宣言

(ヨーロッパにのみ適用)

Husqvarna AB(SE–561 82 Huskvarna, Sweden、電話: +46–36–146500)は、2015年以降(年度は型式銘板のシリアル番号の前に記載)のシリアル番号のパワーカッター**Husqvarna K970 II チェーン**が、以下の議会指令の要件を満たしていることを宣言します。

- 2006 年 5 月 17 日付「機械類に関する」 **2006/42/EC**
- 2004 年 12 月 15 日付「電磁環境適合性に関する」**2004/108/EC**
- 2000 年 5 月 8 日付「環境への騒音排出に関する」**2000/14/EC**。付録 V に従った適合性評価。

騒音排出に関する詳細は「主要諸元」の章を参照してください。

次の標準規格にも適合しています: **EN ISO 12100:2010**、**EN ISO 14982:2009**、**CISPR12:2007+AMD1:2009**、**EN ISO 19432:2012**

試験機関: 0404、SMP Svensk Maskinprovning 社(Box 7035、SE-750 07 Uppsala、スウェーデン)がハスクバーナ社のために、機械指令(2006/42/EC)に基づき 自主試験を実施しました。SEC/10/2286

さらにSMP、Svensk Maskinprovning 社(Box 7035、SE-750 07 Uppsala、スウェーデン)が、2000 年 5 月 8 日付けの「環境への騒音排出に関する」評議会指令 2000/14/EC の付録 V に適合することも認定しました。証明書の番号:
01/169/033 - K970 II チェーン

ヨーテボリ、2015 年 1 月 5 日

Helena Grubb

ハスクバーナ AB 建設機器担当副社長

(ハスクバーナ AB 正式代表兼技術文書担当)